

## ■現場担当者 5つのこだわり

株式会社 荒木組 建築部 工場グループ 現場担当者(須田真弘)

### ①基礎の性能確保

建物を地盤に強固に支持させ、重量を支えて沈下を防ぐためには基礎杭が必要となります。建設地は山を切り開いて造成され、北側に向かって支持層(固い地盤)が高くなっていることが試験によって判明しています。よって、この客殿・庫裡の足元には地盤にねじ込む「先端羽根付き鋼管杭」を144本打ち込んでいます。8種類の長さの鋼管杭を使い分けて、柱や土台などの重量がかかる部分に通り良く配置し、1本毎に「垂直に施工できているか」「支持層にちゃんと到達しているか」「所定の位置からずれていないか」と注意を払い施工しました。また、杭の上部も鉄筋やコンクリートが設計どおりに納まるように精度を気にしながら施工いたしました。

### ②耐震性能の確保

地震が発生した時、柱と桁を組んだだけでは横揺れに耐えることはできません。柱をコンクリートや梁に緊結する「アンカーボルト」「ホールダウン金物」等の7種類の金物が400ヶ所以上、横揺れに対してふんばる「筋交い」「構造用合板」「木ずり」等で構成された耐力壁が4種類100ヶ所以上、構造計算のうえ設計・配置されています。これらは竣工すると天井内や壁の内部に隠れてしまうものなので、あとで見ることはできません。隠れてしまう前にひとつひとつ確認して、金物が他材と干渉してしまう部分は代替金物や他の補強方法を吟味して、耐震性能を確保しました。

### ③雨漏りの防止

屋根は「客殿瓦」を中央に、付属棟の3つの屋根がぶつかる形状となっており、屋根同士や屋根と壁が取合う部分に雨水が入り込まないように水切や水返しの板金を取付けたり、吹き込むことがあっても排水経路から水が抜けるような構造としました。大屋根から流れる雨水を滞留させることが無いように排水性を向上させ、また、強風で横から降りつけた雨水が室内に侵入することがないような納まりを心がけて施工しました。

### ④耐久性と使い勝手の考慮

この客殿庫裡が何百年も立ち続けるためには、設備機器や内外装類の改修をしながらの使用を前提としながらも柱、梁、小屋組み等木造構造部分は交換することなく耐用させる必要があります。担当した大工に、木造骨組み及び化粧材の仕口や継手の加工において伝統的な手作業による墨付け、ノミ等大工道具による加工をしていただき、将来的に緩みが少なく強固で耐久性を高くすることができました。また、設備機器や手摺等、負荷がかかる部分には壁内部を補強してガタつきの発生を抑えたり、旧客殿にあった「額」類の移設を考慮して、壁上部全面に合板を張って吊り下げるものが落下することがないようにしました。

### ⑤住職のこだわりの具現化

工事を進めていくうえで、使い勝手の向上や見栄え(エンターテインメント性)に関して永宗住職より色々なご提案をいただきました。その中のひとつである「旧客殿の欄間彫刻を再利用と設置」については、旧客殿の色々な素材を活かすきっかけになりました。いざ実施してみると古材のため黒く変色していたり、新築欄間の寸法に合わないなどの問題と課題が発生しました。しかし、古材ではありますが思い切って洗浄し、寸法に合うように解体、絵柄をくずさないように細心の注意を払いながら再組立しました。それに加えて、旧客殿の石材、瓦、縁板、本山根本中堂の楓材なども生かせる場所を探して工夫しながら設置していきました。新築の雰囲気合うかどうか心配でしたが、要所要所で新しい材料に対して古材が映え、良いアクセントになったと思います。



# 令和の遺産

令和参年卯月貳拾九日  
矢崎山圓福寺本性院  
第二十三世幸信晋山式  
客殿庫裡改築落慶記念

## ■住職 5つのこだわり

本性院 住職 永宗幸信

### ①檀信徒の皆様に活用しやすい客殿としての動線確保

広い廊下と本堂・トイレ・座敷等への安全連携

### ②新旧和合して寺の歴史も共感出来る融合

間取り・欄間・書画の額・古材等の活用

### ③整った環境管理(空気循環・温度管理)

24時間換気・床暖房(広間・応接等) など

### ④客殿守護の為に祈りの空間

守護硝子(四神\*・天女)、烏枢沙摩明王(トイレの仏様)、比叡山霊木「楓」の活用など

### ⑤点検維持等の為に管理業務の簡易化

施設維持・点検の入口の確保、点検窓の設置



※四神：中国の神話、天の四方の方角を司る霊獣。東の青龍・南の朱雀・西の白虎・北の玄武。



## ■設計者 5つのこだわり

株式会社 荒木組 一級建築士事務所 設計課 課長 垣田林海・同上 主任 杉本知之

### ①伝統建築と現代の技術の融合

以後に寺院建築に携わる方の見本となる様な伝統的な部分にこだわりながら、現代の方も使い易い建物であり、住職や檀家様の想いを具現化できる客殿・庫裡を目指しました。全体的にシンプルな形ですが、その分お寺の行事以外のイベントで利用し易い様になっています。

### ②コストダウン

客殿は維持管理費を少なくする一方、庫裡は環境により交換・改修をしていくという、コストを掛ける範囲のメリハリを付け、コストダウンを行いました。また実測した既存建物の図面にて、倉敷市と協議し、浄化槽の過剰な規模を縮小し、コストダウンを行いました。’

### ③省エネと耐震性

基礎は断熱工法とし、庫裡側はより断熱材を充填しました。設備では、オール電化・小屋裏換気・照明はLEDとしました。耐震性では、建築基準法で必要な耐震性能を2割増しにて設計しています。

### ④客殿庫裡と既存建物の維持管理

客殿庫裡だけでなく、既存建物の維持管理をやすくする為、既存建物の実測と簡易な図面化を行い将来の維持管理に役立てて頂ければと思っています。今回の工事で既存の設備配管は整理され、図面にて以降の管理はしやすくなっています。

### ⑤周囲の景観との調和

境内に入り、北を見上げた時に、幼稚園の塔屋が見えず、かつ本堂よりは小さくなる様に、棟の高さを調整しました。また配置についても、既存の樹木を残して工事のできる位置に調整しました。



## ■大工 5つのこだわり

株式会社 畑本建築 取締役 畑本貴志

### ①材料

原木から買い付けることで流通コストを抑えて良材を調達しています。

### ②木取り

木取りとは加工前の木材を用途に応じて構造的強度や美観を考慮して配置や向きを決定することです。今回の客殿庫裡の工事では、化粧材(目に見える部材)に上小材が使用されています。上小材とは、1cm程度の節が1mの長さにつき一つ程度の等級の木材ですが、この材料を選定するときにはできる限り節が隠れる様に木取することで、節が目立たない美しい仕上がりを実現しています。

### ③墨付け、刻み

木材は一本一本、職人の手で墨付けがなされ、刻まれています。

木材の継手や加工は伝統的な技術を踏襲しつつも、現代の技術を活用して施されます。私達は、この建物がより長持ちし使う人に喜ばれるものとなる様、刻む力に気持ちを込めて仕事をしました。

### ④ディティール

木材の接合部が隙間なく強固に付く様に心掛けました。その為に、目には見えませんが様々な工夫を凝らしています。また、直線や曲線、表面の美しさに気を配って仕事をしました。

### ⑤銘木

客殿、庫裡の玄関の框(カマチ)はサクラを使用しています。

洋室1、洋室2、収線室には独自の製品でスギの柵板(まさいた)を使用しています。

客殿東側のトイレの腰壁板は米松の銘木であるピーラー材で、原木を調達し加工した独自製品です。職人が材料を厳選して使用しています。

トイレの手洗いカウンター及び廊下の展示台の天板にはブビンガ(別名アフリカンローズウッド)を使用しています。赤い木目が美しく上品な雰囲気があります。

床の間では、床柱はケヤキ、床框はケンボナシ、落とし掛けはイロハカエデ(もみじ)を使用しています。すべて、漆塗り仕上げです。

その他、マツの力強さ、ヒノキの美しさ、スギの上品さなど木材の表情を体感して頂ければ幸いです。

本性院客殿・庫裡改築工事 協力会社  
設計：株式会社荒木組一級建築士事務所 施工：株式会社荒木組 木工事：株式会社畑本建築

